

事業所における自己評価総括表(公表)

COMPASS.Sunny



○事業所名	COMPASS.Sunny		
○保護者評価実施期間	令和7年 9月 10日	～	令和7年 9月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 5日		～ 令和7年 9月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価作成日	令和7年 9月 11日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	COMPASSでは全国に事業を展開しており、系列事業所との連携があります。 各担当者が会議や勉強会をおこなっており、事例検討なども含めて多様な視点からの意見を取り入れ、計画書や日々の療育に反映しております。	各担当ごとに事業部内でグループを形成し、主体的に会議や勉強会を実施しております。 複数地域に事業所を有しているため、不明点は指定権者へ確認をおこない、法令に基づいた適正な事業所運営に努めております。	児童が安心して通いながら成長を感じられる事業所づくりを目指し、ルールを遵守した運営に努めてまいります。
2	COMPASSでは、通所訓練において、子ども一人ひとりの発達段階や特性を丁寧に把握し、それぞれに適した教材を工夫しながら個別対応をおこなっております。 これらの取り組みにより、学習意欲の向上や集中力の定着、自己肯定感の育成につながっております。	保護者様のご意見や観察を支援計画に反映しております。 ご家庭での様子や児童の変化について定期的に情報共有をおこない、支援内容を柔軟に調整しております。 また、助言や提案をおこない、ご家庭での関わりがより効果的となるよう努めております。 さらに、関係機関と連携し、訪問支援や意見交換を通じて多角的な支援をおこなっております。	児童発達支援計画は原則6か月ごとにモニタリングをおこなっております。 達成度だけでなく行動変化や反応を分析し、支援の効果と課題の把握に努めております。 得られた知見を基に、必要に応じて目標・内容・方法の見直しをおこない、支援の最適化に努めてまいります。
3	当事業所では、職員間で定期的に情報共有および支援内容の振り返りをおこなっております。 その中で利用者の変化を捉え、支援方法や教材などを柔軟に調整することを重視し、個々のニーズに応じた支援の提供に努めております。	保育士・言語聴覚士・理学療法士・作業療法士等が連携し、児童の発達全体を見通した支援をおこなっております。 各専門職が情報共有をおこない、支援計画を柔軟に調整することで、個々のニーズに応じた支援提供に努めております。 多角的な視点で支援をおこない、より効果的な支援の実現に努めております。	活動プログラムを固定化せず、常に見直しをおこなっております。 児童の発達段階や特性、生活環境の変化に応じて、個別活動と集団活動を柔軟に組み合わせております。 活動内容・頻度・時間を調整し、持続可能で効果的な支援に努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の発達特性や興味に応じた多様な教材および教具の整備について、一部課題があると認識しております。 特に、特性の異なる複数の児童に即時対応できる教材や道具の種類・数量が十分とは言えない状況です。 今後は、教材の選定および購入体制の見直し、既存教材の共有、外部資源やデジタル教材の活用を進め、より多様な支援が可能となる体制整備に努めてまいります。	有資格者による支援体制を整えておりますが、個別ニーズに応じた支援の質向上のため、職員の専門性向上が必要と認識しております。 発達障がいや情緒面への対応において、研修や情報共有体制の強化が必要と考えております。 また、事務業務の負担により支援時間が制限される場合があるため、業務効率化と支援時間確保の両立に努めてまいります。	個別支援や小集団活動を実施しておりますが、環境面で十分に対応できない場合があるため、空間の工夫やゾーニングの見直しに努めてまいります。
2	児童一人ひとりの特性に応じた支援の提供に努めておりますが、職員間で支援スキルや対応力に差が見られる場面があり、支援の質にはばつきが生じることが課題と認識しております。 特に発達障がいや情緒面に課題を抱える児童への対応においては、より専門的な支援の充実が求められております。	送迎時を中心に情報共有をおこなっておりますが、時間的制約により十分な聞き取りが難しい場合があると認識しております。 また、保護者様の不安や遠慮への配慮についても更なる工夫が必要と考えております。 今後は面談や連絡帳、ICTツールを活用し、双方向の情報共有の充実に努めてまいります。	支援の質の均一化に向けて、職員間での知識や支援方法の共有を強化してまいります。 内部研修の実施、マニュアル整備、ケース検討の充実により、安定した支援体制の構築に努めてまいります。
3	送迎時の短時間のやり取りに依存しているため、十分な情報共有が難しい場合があると認識しております。 家庭の様子や課題の把握が不十分となる可能性がある点を課題と捉えております。	療育室や活動スペースについては一定の面積を確保しておりますが、児童の特性に応じた空間配慮が十分でない場面があると認識しております。 今後はゾーニングの見直しや設備配置の工夫をおこない、より安全で安心して過ごせる環境整備に努めてまいります。 また、事務業務の効率化や役割分担の見直しを進め、支援の質向上につながってまいります。	連絡帳やICTツールを活用し、双方向の情報共有体制の強化に努めてまいります。 また、事務業務の効率化や役割分担の見直しを進め、支援の質向上につながってまいります。

